

# 長崎検定

## 一級さん

Vol.2

### 長崎検定を受験して

### 石川 泰治 さん

合格率四・八％……。長崎歴史文化観光  
検定の最難関を突破した一級ホルダー。  
その卓越した識見には、なにやら一言  
ありそうです。  
ざくばらんに寄稿願いました。

昨年、妻と大分県日田市を訪れた時のこと。かやぶき屋根の閑静なたたずまいの建物が目に入ったので訪れてみた。「咸宜園かんぎえん」という江戸時代に建てられた私塾の跡であった。

部屋に上がり見学していると、案内の人に「どちらからですか」と声をかけられた。長崎からと告げると、部屋の一角に案内され「上野彦馬はご存じですか」と聞かれたので少し驚いたが、知っていると答えたら、彦馬が十四歳で入門した時の紹介状を見せてくれた。大分の地で上野彦馬の名前を聞くことは思ってもみなかった

ので、何か懐かしいような感慨を覚えた。彦馬ばかりでなく、岡研介や高野長英といった人達も塾生で、鳴滝塾でも学んだことを知っておられ、詳しく説明していただいた。

遠く離れた土地で長崎ゆかりの人達の話を聞くことは大変興味深く、説明してくれた方の博学と、もてなしに敬意を覚えた。



▶上野彦馬が咸宜園に入門した際の紹介状

長崎でもその昔、鳴滝塾や海軍伝習所をはじめ、さまざまな場所で長崎以外の人達が集まり勉強に励んだが、他県から来た人達にもこのように案内ができればと思う。

#### 昨年、長崎検定

で二級が初めて実施されることを知り受験した。一級対策セミナーで講習を受け、長崎の歴史の奥深さを痛感した。ノート数冊に、公式テキストやセミナーの資料をもとに要点を整理し、繰り返し勉強した。人名や作品など、難しい漢字が多く苦労したが、広告の裏や不要な紙などに何度も書いて覚えるようにした。こうして幸いにも二級に合格することができた。

長崎のことを勉強することで、ますます長崎が奥深く、興味のわく対象となったと感じている。たとえば、今まで何げなく足を運んでいた



▲咸宜園 (大分県日田市)

県庁の地が、その昔は海に突き出た岬の先端であつたことや、イエズス会の教会が建ち、時代が変わつて長崎奉行所となり、幕末には海軍伝習所や医学伝習所が置かれ、まだ標準語などなかつた時代、各藩の人達のお国言葉が外国語に交じって飛び交っていたらう様を想像する。長崎には、こうした場所がいたるところにあるが、その場所が今までと違つて深く、立体的に見えるようになった気がする。

その時代時代に思いをはせることは、私にとつて楽しいものになっている。

長崎検定一級といつても、範囲は広いけれどまだまだ浅い知識にすぎない。これからも「思いをはせる楽しさ」を味わいながら知識を深め、長崎の良さを他県の人々にも伝え、観光地・長崎の役に立ちたいと思つている。



【プロフィール】  
昭和28年、長崎市竹ノ久保町生まれ。  
55歳。  
長崎西高出身。  
NTT西日本勤務、西北町在住。